

～電力自由化で変わる新しい生活環境セミナー～

日時：平成28年4月23日（土）15：00～15：50

場所：サンメッセ香川 小展示場

内容

15:00～15:50 電力自由化セミナー

○講師：石丸貴樹（一般社団法人日本PVプランナー協会理事、株式会社イーステージ専務取締役）

○プロフィール：

- ・太陽光発電プランナー育成を目指す、一般社団法人日本PVプランナー協会の理事で、現場に精通している数少ない経営者。
- ・自身で太陽光発電の販売、施工のイーステージ（東京都）の専務取締役を務め、日々現場と向き合っている。
- ・前職で、太陽光発電システムの販売セールスコンテストで「全国No.1」になった実績を活かし、全国で講師として活躍。

<1. 電力自由化で何が変わるの?>

○全国10の電力会社の価格は

- ・全国に10ある電力会社は、同一料金ではない。
- ・四国で月1万円電気代を払っている人は、同じ電気量を北海道で使うと9千円弱。北海道で1万円電気代を払っている人が北陸に引っ越すと8千円弱の電気料金に。
- ・北陸は水力発電所が多く、発電所の整備が終わればあとは多くの多くの費用を必要としないことから安い料金で電気を供給できる。
- ・北海道は、面積が広い中に少ない人口のため、送配電線設備に多くの費用が必要となる
- ・東京電力は、全国の3分の1の電気を販売している。
- ・新しく生まれた電力会社は200社以上。

○20年前から「電力自由化」

- ・大型ビル群など特定の地域を対象としたものや、大需要家を対象に、電力の自由化がスタート。
- ・東日本大震災をきっかけに 東京電力では発電能力の不足から「計画停電」「電力使用制限」を実施する事態に。 → 電力の安定的な供給、電力供給システムの多重化を
- ・電力システムを3段階で改善
 - 段階1：2015年4月 地域間の電力融通
 - 段階2：2016年から 電力小売りの全面自由化 8,400万件 7.5兆円市場
 - 段階3：2016年4月 発送電分離 配送電会社（電力会社の子会社） ← 送電料金はひとつ

○電力自由化のために

- ・発電の自由化：誰でも電力供給事業者になれる
- ・小売りの自由化：どの供給事業者からでも電力を買える
- ・送・配電の自由化：誰でもどこへでも既設の送配電網を使って、電気を送配電できる
- ・配送電分離：既存の電力会社の発電部門と送電部門を切り離すことで競争環境を整える

○責任を担う

- ・1度契約すると、2年間（長いところは3年間）は解約できない。違約金は10万円ほど。

<2. 電力自由化で気をつけないといけない事って何>

○メリット

- ①電力料金プランを比較して選べるようになる。
 - ②セット割りなどの、経済メリットのあるプランを選べる。
 - ③CO₂を出さない環境に優しい電気を選ぶことが出来る。 ← 3割は環境面から、料金が高くなっても選んでいる人
- ・地産地消の電力 地域で発電した電気を地域で消費し、利益を地域に還元 ← 自治体の収益となる（愛媛県が取組中）

○デメリット

- ①電力の安定供給の不安
- ②電力料金の値上がりへの可能性
- ③2020年以降の問題 現在は既存10電力会社に「電力の供給義務」が定められているが、2020年以降この義務の撤廃が検討されている。 ← 電力の安定供給への不安がある

↓

「電力自由化」であり、「電力安売り」とは言っていない

<3. 自由化以降の住宅設備に必要なものとは？>

○スマートメーターに出来ること

- ・今までは月に一度の電力使用量の検針 → 30分ごとの電力量の計測
- ・スマートメーターは四国電力が無償で工事。平成26年度下期から開始し、平成35年度末で導入完了予定。 ← 「電力自由化によりメーターの交換が必要」と、**工事費請求詐欺に注意!**
- ・ホーム・エネルギー・マネジメント・システム HEMS（ヘムス） ← 家の電気を管理するシステム

○HEMSに出来ること

- ・エネルギーの制御：ブレーカー落ちない。過負荷を常に監視し、停電させてはいけないもの（炊飯器や照明など）を優先し、電力供給をコントロールする。
 - ・エアコン：室温が何度を超えたから風量を小さくする。電力消費量が設定値に達したら電源を切る。外出先からエアコンのオン・オフが出来る。
 - ・HEMS対応住宅分電盤 HEMSとセットで使用。
- ・「住宅用分電盤の更新推奨時期は、製造後13年」となっている。電線の被覆が変色しているのは劣化の証し。 → 電線の端部を切り捨て、再接続する。

○アンケート結果から

- ・70.3%の人は、電力会社を変えてみたい
- ・実際に電力会社を変えた人は0.6% 8,400万人の中の50万人だけ
- ・電力会社を変えたい人の理由の80.3%は、「安くしたい」
- ・安くなるのは月に100～200円程度しか安くない。
- ・電話やガスなどとのセットで電気代が安くなっていても、多くの通信費を払うことになっているかも。2年間の契約期間途中での変更は違約金の発生も。

<4. エコな生活で得られる経済メリット>

○太陽光発電で電気代を大幅に削減できる

- ・屋根に太陽光パネルを18枚、4.39KWを設置すると、年間1,800KWhの消費電力削減が可能。 → 月400KWh（1万700円）の消費電力を250KWh（6,200円）に 月4,500円の削減
- ・使用電力に連動する割高な単価の部分を削減することが出来る。
- ・売電で 32円/KWh（10年間のみ）
- ・買う電気は23円/KWh
- ・太陽光パネルはメーカーの25年保証 10年ほどで設備投資のものがとれる。

○蓄電池は保険

- ・蓄電池の寿命は10年程度 設備投資分のもとをとることは難しい。
- ・しかし、災害時の停電に、太陽光パネルとの組み合わせで、防災用電源となりうる。
- ・200円/日程度の地震保険とって。

—以上—